

2013 年度入試序盤の難関大学の動向(2012 年度第 1 回駿台全国模試結果より)

駿台予備学校では、去る 5 月 27 日(日)に第 1 回駿台全国模試を実施した。この模試は、東大、京大をはじめとする旧帝大や医学部医学科、早慶大といった難関大を志望する高 3 生、高卒生を対象にしたハイレベル模試で、2012 年度は全国で 48,091 人が参加した。

この模試結果をもとに 2013 年度入試の序盤の動向を分析してみた。

【1】顕著な「文低理高」

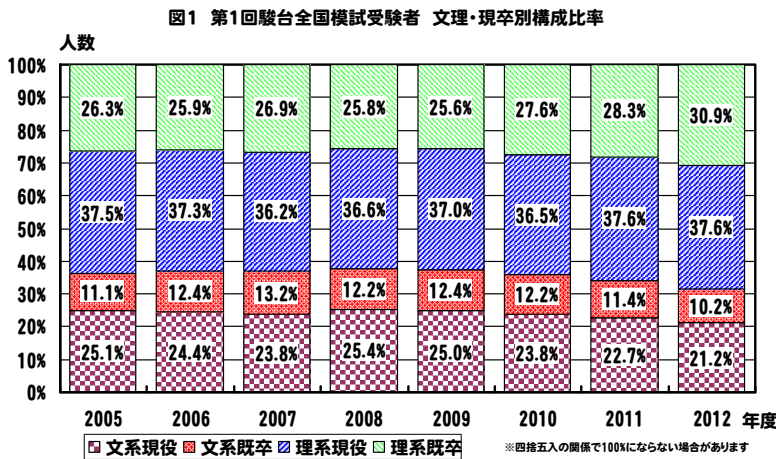


図 1 は、2005 年度から 2012 年度までの第 1 回駿台全国模試受験者の文理・現卒別の構成比率をグラフにしたものである。2009 年度までは、ほぼ一定の構成比率だったが、2010 年度以降は文系の減少、理系の増加が目立っており、2012 年度は 2009 年度と比較すると文系の構成比が約 6 ポイントもダウンしている。リーマンショック(2008 年秋)以降の景気の停滞が、文系大学生の就職状況を悪化させたこともあり、難関大を志望する受験生の志向が大きく理系に傾いていることがわかる。特に、2012 年度は、前年度に比べて約 3 ポイントもダウンと、ここにきて人気については「文低理高」がより顕著になっている。

【2】メディカル系と理学系への高い人気

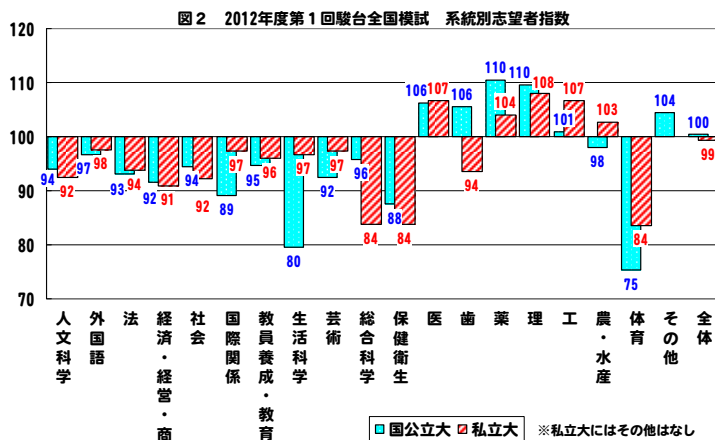


図 2 は、国公立大(日程別第 1 志望合計)、私立大(総志望)の前年度対比の志望者指数をグラフにしたものである。国公立大、私立大のいずれも文系学部はすべて減少している。前年度の同時期の模試では、国公立大の人文科学系、社会学系、私立大の外国語系、国際関係学系などで増加が見られたが、これらの系統もすべて減少に転じた。景気低迷による経済・経営・商学部系に対する不人気は継続しており、法学系は司法試験合格率の低迷、法科大学院の募集停止、公務員を取り巻く厳しい環境など今後も人気回復への光明が見えない。

い。

一方で、国公立大では医学系、歯学系、薬学系、私立大でも医学系・薬学系といった資格直結型であるメディカル系への人気が高い。医学系は医師確保対策による入学定員が増加している影響も大きい。薬学部系はかつての薬剤師養成課程 6 年制移行による敬遠傾向が収まり、人気回復している。国公立大の歯学系は高い人気により難易度がアップした医学系からの流れが見られる。同じく、資格取得系の保健衛生は今回の模試では減少している。5 月下旬実施の模試なので、現時点では医学系、薬学系などよりレベルの高いメディカル系への強気な志望が目立ち、成績上位層では減少している。秋以降に現実的な志望変更による動向変化が起きる可能性があり要注意といえる。理学系への人気も継続している。ヒッグス粒子や日本人宇宙飛行士の話など、成績上位層の基礎研究志向を高める話題が続いていることも高い人気に影響している。私立大の工学系、農・水産系の増加も目立っている。就職を考えての技術志向が高いことがうかがえる。